ミカドフキバッタ

ミカド

真夏の造林地での草刈は高齢者集団にとっては過酷な労働です。にも拘らず 2012 年 8 月 9 日支笏湖 CGC の森の作業は 17 名もの参加者でした。汗まみれの後の温泉と冷たいビールが楽しみにはちがいありませんが、そればかりではありません。手塩にかけた植樹が今年はどんな状態に育っているのかを看るのが楽しみです。順調に育ってくれていれば満足感で癒されますが、枯死を見れば気持ちも塞がります。針葉樹は概ね順調ですが、広葉樹は期待を裏切られることが多々あります。苗の状態にもよりますが、ミズナラとハルニレが良くありません。それら新芽の食害容疑者の昆虫のひとつミカドフキバッタを紹介します。この日足元から頻繁に飛び出しました。

サッポロ

図鑑「札幌の昆虫」にはフキバッタが 2 種類しか記載されていません。他の一種はサッポロフキバッタと命名されています。札幌の名がついた北海道固有種です。

この 2 種のフキバッタは翅が退化したのか進化しなかったのかで翅がないのが特徴です。大きさはイナゴぐらいです。ミカドは分布は北海道と本州で外国にはいないようです。フキの葉にとまっていることが多いので命名されたようですが、ミカドはフキばかりでなく他の植物の葉もたべるようです。数年前にこのバッタが枯れた草の茎のてっぺんで干物のようになって変死しているのを多くみかけました。一説によると寄生した病原菌がその胞子をより高い場所から飛ばすためにこのバッタを高所に誘導するのだそうです。ほんとうならば自然はやっぱり神様の支配するところと思ってしまいます。

この日も荻田さんがエゾライチョウの写真を撮ったと見せてくれました。エゾライチョウにとっては翅で飛ばないこのバッタは捕捉しやすくて貴重な蛋白源になっているでしょう。

翌日は出発間際に本降りの雨。作業を中止して皆で美笛のキャンプ場のアプローチ道沿いの巨木を観にゆきました。キノコ目線の湯澤さんがタモギタケが出ている木を 2 箇所も見せてくれましたが、薮漕ぎすればずぶ濡れになるので誰も挑戦しませんでした。